公益財団法人日本宇宙少年団
令和6年度 事業計画書

はじめに

昨年度末におきまして、月探査機「ＳＬＩＭ」の月面着陸成功やＨ３ロケット２号機打ち上げ成功など、喜ばしい結果が続きました。

今回の成功が次世代を担う多くの子ども達の好奇心を刺激し、宇宙へのあこがれや夢を広げ、そして今後の日本の宇宙開発の発展に寄与するものと期待しております。

公益財団法人日本宇宙少年団の活動は、全国の指導者の英知と善意をもってその活動がなされており、その活動を賛助及びご寄附下さる関係各位やのご理解とご支援により財団運営が遂行できましたことについて、心より感謝を申し上げます。

上記を踏まえ、以下に今年度の各事業における具体的な取り組みを記載します。

Ｉ．人材育成事業　（公１）

未来を担う青少年に、宇宙及び科学をテーマとした体験・体感型学習を通して興味や関心を喚起させ、青少年の宇宙への夢を育む人材育成を目的に、以下の事業を行います。

１．スペースキャンプ事業
２．情報発信事業
３．ｗｅｂによる普及啓発事業
４．４０周年記念事業（特定費用準備資金）
５．その他事業

１．スペースキャンプ事業

（１）種子島スペースキャンプ

ロケット打上げ射場のある種子島を中心に、「宇宙・自然・交流」をテーマとした体験学習を行います。

種子島では、ＪＡＸＡ種子島宇宙センターの見学や専門家による講義やロケット工作と打上げ、そして種子島の歴史に触れる体験プログラムを行います。

全国から集う異年齢の小中学生を対象に、子ども達に「本物」に触れ学ぶ喜びを分かち合い、興味・感動を引き出す機会を提供します。

時期：夏休み又は春休み（３泊４日又は４泊５日）
場所：鹿児島県・種子島
対象：小学４年生～中学生の団員及び一般

（２）筑波スペースキャンプ

筑波宇宙センターの見学やロケットや衛星、有人宇宙活動についての理解を深める体験

プログラムを実施します。
さらに、異年齢のグループ活動ではコミュニケーション力を養い、宇宙飛行士の心身ともに鍛えることの大切さや宇宙開発の現場のチームワークの重要性について専門家から講義を行います。

時期：夏休み又は春休み（３泊４日）
場所：ＪＡＸＡ筑波宇宙センター
対象：小学４年生～中学生の団員及び一般

（３）相模原スペースキャンプ
はやぶさ２拡張ミッションで２０２６年７月にフライバイ探査を行う予定の小惑星２００１ＣＣ２１の名称募集が２０２４年５月に終了します。この年の夏休み時期に子どもを中心とした名称選考が予定されることから、相模原スペースキャンプを計画し、宇宙科学研究所の見学や研究者からお話を聞く機会を設け、宇宙科学分野に携わる夢や希望、宇宙科学に対する興味や関心を持たせます。

時期：夏休み
場所：神奈川県・相模原市
対象：小学４年生～中学生の団員及び一般

２．情報発信事業

（１）宇宙情報誌等
宇宙に関わる様々な分野や研究者の活動紹介、そして宇宙及び科学に関する最新のニュース、新しい科学の発見などを誌面で紹介し、子どもたちの宇宙及び科学に対する関心・好奇心を育むことを目的として情報誌「宇宙のとびら」の編集に協力します。
この「宇宙のとびら」をＪＡＸＡ宇宙教育センター（発行）及び公益財団法人日本宇宙少年団（編集協力・団員配布）の連携により、年４回（６月、９月、１２月、３月）発行し、団員や賛助企業等への発送をはじめ、分団活動や財団事業で配布し広報活動等に役立てます。

（２）ＹＡＣ通信の発行
これから予定するイベントの告知や終了したイベントの報告、分団での活動紹介やこれから設立される分団の情報等をまとめた「ＹＡＣ通信」を年４回（６月、９月、１２月、３月）発行し、「宇宙のとびら」と一緒に団員へ発送します。

（３）団員への送付物
入団に際し、団員特典として、新規団員は団員証、バッジ、パスポート、冊子、ＹＡＣ通信、付録教材等を送付します。継続団員は団員証、パスポート、冊子、ＹＡＣ通信、付録教材等を制作・送付します。

（４）団員管理システムの維持管理
財団独自に構築している団員管理システムにより、分団活動及び団員一人一の個人情報の適切な管理に努めます。
また、昨年度ホームページのリニューアルを図り、分団活動等ページを見やすくしましたので、分団活動情報の速やかな掲載を促し、常に新しい情報発信ができるよう分団とも

連携していきます。

３．Ｗｅｂによる普及啓発活動

（１）分団等連携団体との協力推進

宇宙及び科学技術を共通の題材とした子ども達の人材育成には全国の分団との連携協力が不可欠です。そのため、分団等連携団体との連携を図るため、活動委員会が中心となり、全国の宇宙少年団分団との協力推進を行うとともに、体系的な指導方法や共通した育成方法を毎年分団長が集う「分団長会議」の場で実践例を紹介し、意見交換及び交流等を行います。

なお、分団長会議の場で活動委員会が提案する共通プログラムをｗｅｂ上で開催し、各分団長の参加を促します。今年度は、１１月１６日（土）～１７日（日）に都内で開催する予定で、オンラインでの参加も可能とすることにより、できるだけ多くの分団長の参加を計画します。

（２）活動マニュアル等のｗｅｂ公開

ＹＡＣ指導員のみならず広く一般に、活動教材集や宇宙教育誌をｗｅｂで公開し、活動の素材提供、宇宙時代の教育について考える場、宇宙と教育についての考察の場、宇宙教育の実践研究報告の場を提供します。

（３）ｗｅｂを通したイベントの取組み

財団主催及び共催で実施するスペースキャンプやコンテスト、団員のみならず広く一般を対象とするイベントなど、一般を含む各種事業の参加募集や実施結果等を、ｗｅｂを通して公開し、子ども達の宇宙及び科学に関する普及啓発を行います。また、YouTube Liveなどのライブ配信機能を活用し、全国各地の団員が宇宙について学び、質問ができる機会を提供します。

（４）講師派遣等

社会教育団体等で活動する指導者の育成を目的とするセミナーを、ＪＡＸＡ宇宙教育センターと当財団が主催となり、開催地域と連携協力しながら実施します。

また、青少年や一般を対象にその他事業として、外部のリモートによるイベント、対面によるイベント等に講師を派遣し、宇宙及び科学に関する知識の普及啓発を行います。

４．４０周年記念事業（特定費用準備資金）

アンケート調査の結果をとりまとめ、４０周年を迎えるまでに財団名称の変更をはじめ財団の課題等を把握し方向性を検討します。

時期：２０２４年（予定）

５．その他事業

２０２３年１１月、Ａｋａｍａｉ財団（アメリカ企業）「２０２３年度グローバルＳＴＥＭ教育助成金プログラム」(Akamai Foundation 2023 global STEM education grants)へ申請し採択を受けたので、今年度申請内容に基づきプログラム開発及び実施を行います。

プログラムタイトル：飛翔シミュレーションを用いた新しい形の水ロケット教育

Ⅱ．管理運営等

1．会 員

新型コロナウィルス感染症の流行からようやく日常が戻り、新規分団設立の問合せや休団中の分団が復活する兆しがある分団もあり、徐々に新規団員も増え始めています。

活動委員会では、定期的に全国の分団活動状況調査や分団活動報告を確認し、全国の分団活動状況や活動計画を把握する手掛かりにしていきます。

日本宇宙少年団活動も35年以上が経ち、多くの団員やリーダーが卒業しております。団員の保護者や一般にも宇宙や科学技術に興味を持つ方も多くおり、多様な団員の有り方、つながり方を検討していき、新しい団員の獲得に繋げていきます。

2．事務局体制

(1)要員

事務局は、昨年度に続き、事務局長と旅行業務取扱責任者を併任する常勤1名と事務局員常勤2名、非常勤1名の計4名体制で事業の運営及び管理業務に当たります。また、スペースキャンプ事業等の実施には、当財団役員が講師となり、専門性を活かして積極的に関わってもらいます。

(2)寄附金募集の推進

当財団に対する寄附金については、各それぞれの事業の報告を行い、次年度の継続や新規営業、PR等、積極的に努めます。

以 上